

研究テーマ	自ら考え、主体的に課題を解決する生徒の育成 ～見通しをもった活動と学び合いの場の設定～
-------	------------------------------------------------

神栖市立波崎第一中学校 教諭 庄司 友紀

I 研究テーマについて

神栖市では学力向上プラン「井上プロジェクト」に市内全ての学校が取り組んでいる。小・中学校共通、また全教科共通のグループ活動を取り入れた生徒が主体となって学び合う授業スタイルである。美術科においても鑑賞授業については、話し合い活動を中心としたこの授業スタイルで効果的な授業を行うことができた。しかし、表現活動となると手探りの状態が続いている。つかむ、考える(パーソナルワーク)、深める(グループワーク)、確かめるの4段階構成で授業が行われ、総合司会も生徒が行うなど、主体性が求められるが、表現活動をこのスタイルに当てはめるのは難しい。

そこで生徒が主体となる授業作りを目指し、“見通しをもつ”ための手立てと“学び合いの場”の設定をテーマとして研究しようと考えた。見通しをもつための手立てとして、ワークシートの工夫を行った。生徒が授業内容や制作過程を理解しやすいように資料をまとめ、自己評価と併せて確認できるように計画した。学び合いの場では、制作途中の相互鑑賞、学習班での制作を行い、教え合ったり、相談したりしやすいようにした。

II 研究の実際

1 題材 思い出の校舎と蘇鉄の木～版表現を楽しもう～

2 題材の目標

版表現の方法に関心をもち、制作全体に見通しをもった活動ができる。また、周囲の関係性を理解して画面を構成し、校舎や蘇鉄の木などの感じが効果的に表現できるように彫りや彩色を工夫することができる。

3 題材について

(1) 生徒の実態(平成26年度1年2組)

(在籍人数：男子15名、女子13名、計28名、調査実施日：平成27年1月20日 対象：28名)

1 美術の授業で難しい・苦勞していることは何か。(複数回答)	
ア イメージ通りに作れない(21名)	エ 時間に間に合わない(9名)
イ アイディアが浮かばない(15名)	オ 道具が上手く使えない(6名)
ウ 作業の手順がわからない(2名)	カ 完成予想ができない(3名)

2 版画の授業をどう思うか。	
ア 簡単だと思う(2名)	イ 難しいと思う(21名) ウ どちらでもない(5名)
3 版画の授業で難しい・苦勞するところは何か。(複数回答)	
ア 作業の手順がわからない(3名)	エ 彫刻刀が上手く使えない(12名)
イ 下絵が上手く描けない(13名)	オ 彫るところがわからない(8名)
ウ 完成予想ができない(7名)	カ 1つの作業に時間がかかる(16名)

本学級生徒は、明るくのびのびとしており、一つのものごとを協力して行おうとする生徒が多い。授業等における話し合い活動に積極的に取り組み、考えを深めることができる。話し合いがスムーズに遂行するように司会役を上手に行う生徒も多くいる。美術科においては、表現活動に大変意欲的に取り組む。参考作品や掲示している生徒作品に興味をもち、互いに感想を述べ合ったり、制作方法を質問してきたりする生徒の姿が見られる。一方で授業全体の見通しをもつことができず、計画的に作業を進めることができない生徒もいる。アンケートの質問項目1, 3において「時間」について苦勞していると答えた生徒が多くいた。版画について見ると、制作の難しさを感じる生徒が多数いる。技能面を除くと、彫る部分と残す部分の見通しがもてないことで、完成図が予想できないと思われる。

(2) 題材観

美術科学習指導要領における表現の指導事項には、A表現(3)イ「材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現すること。」とある。本題材は、一版多色刷木版に裏彩色を施す作品である。効率的な作業手順を考えたり、彫刻刀の種類や彫刻の仕方など、表現方法についても計画性をもって取り組むべき題材である。モチーフは、平成27年度で取り壊しになる本校校舎外観と本校シンボルの大きな蘇鉄の木とした。生徒には馴染みがあり、親しみやすいモチーフである。この実践は、生徒同士が意見交換を行いながら授業を進め、主体的な活動を促す取り組みにしたいと考えた。そのため、ワークシートと資料を一体化させ、前時までの授業を振り返り確認したり、活動の見通しをもったりしやすいように工夫した。生徒が苦手とする“見通し”のもち方について研究・改善するのに適した題材であると考えた。また、神栖市授業スタイルを生かし、相互鑑賞等も効果的に行いたいと考えた。

(3) 指導観

本題材では、毎時の授業の目標を明確にすることや自己評価を十分に行わせることなど、制作以外の時間のもち方を工夫したい。生徒の主体的な活動を促すために、ワークシートを活用し、見通しをもたせるようにする。作品は、彫刻刀の種類や彫りの特徴をふまえ、表現の工夫について考えさせた上で取り組ませようと思う。全ての生徒が小学校時にも版画を行った経験はある。しかし表現方法について踏み込んだ内容には至っていなかったようだ。裏彩色も含め、今までに経験した版画とは異なる多様な表現を目指したいと考える。

また、生徒のグループ活動の際には、話し合いの役割分担、ルールなどを事前に確認し、取り組ませたい。小学校からの共通の授業スタイルにより、グループ内には円滑に話し合いを進められる生徒がいる。友達の意見と質問を交えながら聞くなど、話を上手く引き出して活動を行っている。話し合いの場を利用して、自分の考えを明確にする手立てとしたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
彫りと刷りの楽しさを味わい、版表現の方法に関心をもって取り組もうとしている。	周囲にあるものの関係性を理解して画面を構成し、制作の順序などに見通しをもっている。	校舎や蘇鉄の木などの感じが効果的に表現できるように、彫りや彩色を工夫し表している。	版表現のおもしろさを味わい、自他の作品のよさや美しさを感じ取っている。

5 指導と評価の計画

時間	学習内容・活動	主な評価規準・【評価方法】
第一次	<p>版画の種類や版表現の多様さ、特性などを知る。</p> <p>校舎と蘇鉄の木をスケッチし、版の下絵を作成する。</p>	<p>・版表現の方法に関心を持ち、今後の活動に見通しと目標をもって取り組もうとしている。</p> <p>【関】【観察・ワークシート】</p> <p>・周囲にあるものの関係性を理解し、画面を構成している。</p> <p>【想】【観察・作品】</p>
第二次	<p>校舎や蘇鉄の木の感じが効果的に表現できるように、彫り方を工夫しながら制作する。</p> <p>友達と表現方法や道具の扱いについて互いに相談しながら取り組む。</p> <p>校舎や蘇鉄の木がより効果的に表現できるように、色や彩色の仕方を検討し、着色する。</p>	<p>・彫刻刀の種類や特性を理解し、彫りなどの表現の仕方を工夫して制作している。</p> <p>【創】【作品】</p> <p>・友達の作品についてよく観察し、意欲的に意見交換している。</p> <p>【関】【観察・ワークシート】</p> <p>・より効果的な表現について考え、構想している。</p> <p>【想】【観察・作品】</p> <p>・配色の仕方を工夫して制作している。</p> <p>【創】【作品】</p>
第三次	<p>友達の作品のよさを見つけて伝え、自身の活動について振り返る。</p>	<p>・版表現のおもしろさを味わい、友達の作品のよさや美しさを認め、自分の作品のよさにも気づくことができる。</p> <p>【鑑】【観察・ワークシート】</p>

6 実際の指導

(1) 本時の学習

- ① 目標 友達の作品をよく観察し、表現の仕方や道具の使い方について意欲的に意見交換することができる。
- ② 準備・資料 ワークシート、制作途中の版画板、参考作品、美術資料
- ③ 展開

学習活動・内容	支援の手立て(○)・下位の生徒に対する支援の手立て(●)及び評価(◇)
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>友達の作品をよく観察し、表現の仕方について話し合おう</p> </div> <p>2 学習班(4人)を作り、ワークシートと作品を交換し、観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の作品を観察し、①良いところや参考になったところ、②友達へのアドバイスをワークシートに書く。 ・ 書き終わったら他の友達の作品についても同様に観察を行う。 <p>3 友達の作品やアドバイスから、再度表現方法について見直しをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートをもとに、表現方法について考え、美術資料で調べたり友達と話し合ったりしながら、制作を進める。 <p>4 自己評価カードに本時の感想と次時の目標を書く。</p> <p>5 本時のまとめと次時の学習内容について話を聞き、見通しをもつ。</p>	<p>支援の手立て(○)・下位の生徒に対する支援の手立て(●)及び評価(◇)</p> <p>○ 学習内容を説明する。相互鑑賞の必要性、今後の作品制作に対する見通しについて話をする。</p> <p>○ 参考作品を例示し、表現の工夫についてポイントを示す。</p> <p>○ 活動の仕方を説明する。友達の作品について批判することがないように注意を促す。</p> <p>○ 時間を計測し、順番に観察できるように合図する</p> <p>● アドバイスが難しい生徒には、作品の良い点を見つけるように助言する。</p> <p>○ 友達の作品やアドバイスをもとに、今後の作品制作の進め方について説明する。</p> <p>● 机間指導しながら、ワークシートに書かれた意見や生徒の発言を取りあげ、表現についての考えを深めさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◇ 友達の作品をよく観察し、表現の仕方や道具の使い方について意欲的に意見交換することができる。</p> <p style="text-align: right;">関【観察・ワークシート】</p> </div> <p>○ 本時の活動を振り返らせる。次時の目標を板書する。</p> <p>○ 本時の活動を振り返り、良かった点について話をする。次時の活動について説明する。</p>

(2) 活動の様子

<第一次>

導入では、版の種類や代表作品や作家について説明した。また、完成作品が校舎解体前の式典に掲示されることなども



話をした。生徒は、多くの人の目に作品が触れることを意識している様子であった。

次に構図について学習し、スケッチを行った。毎時間クロッキーを実施していることもあり、比較的スムーズに制作に取り掛かることができた。蘇鉄の木をメインに描く生徒や校舎をメインに描く生徒、見る角度を変える生徒など、個々に工夫が見られた。

<第二次>

始めは彫刻刀の扱いに苦戦する生徒が多く見られた。学習班にしたことで、友達の作業の様子を見て学ぶ生徒が出てきた。話し合い活動が各教科で行われていることもあり、制作方法について積極的な意見交換が行われた。



ワークシート内の自己評価の欄は、回を重ねるごとに内容



が深まってきた。具体的な記述が増え、質問なども記された。良かったところや上手くいったところ、改善点や悩んでいること、次の活動への意欲や目標などよく書かれていた。自己評価欄が充実してきたことで、課題への取り組みも良くなった。

相互鑑賞では、以前にも同じような取り組みを行ったこともあり、前回よりもスムーズにコメントすることができた。改善点についての的確



に指摘する場面もあった。その後の活動では、友達のコメントを見たり相談したりしながら制作に取り組んだ。特に表現の方法については、彫刻刀の使い方や表し方などの質問も制作中に多く出た。表現することへの興味が湧いてきたように感じた。

<第三次>

平成 27 年度より新校舎に移転し，旧校舎は解体前の式典に際して一般公開された。廊下や階段に作品を掲示し，地域の人や卒業生，保護者



などたくさんの人の目に触れる機会になった。掲示作品を選ぶ際に，生徒は彩色の工夫を行ったものや刷り上がりがきれいなものを選んだ。友達の作品を見て，「同じ校舎を描いているのにみんな違う」「彫り方や色のつけ方に個性がある」と表現方法の違いに注目する意見が多く聞かれた。また，制作を終えて「思っているよりも良い作品になってうれしい」「難しかったけど，彫りの工夫ができた」「時間内に終わらせるのは大変だったけど，その中でも丁寧に制作できた」「友達と相談して制作を進めて，楽しく頑張った」などの感想が聞かれ，生徒自身が満足いく活動になったことが伺えた。

7 成果と課題

今回の実践では，ワークシートについて様々な工夫を行った。制作全体の活動予定，版画制作に関する資料，自己評価欄などをまとめた冊子にした。自己評価欄は，本時の感想と次時の目標を書かせた。また，毎時の授業では本時の目標や学習内容の板書の他に，活動のタイムスケジュールについても板書し，より活動に見通しがもてるようにした。このような取り組みが，授業や制作の見通し，学習内容の理解へとつながった。生徒が見通しをもって活動することで，学び合い活動も有効に行うことができた。学習内容がしっかりと理解できたことや学習班で生徒同士が相談しやすい環境にあったことから，興味・関心をもって制作に取り組んだり，向上心をもって表現方法を工夫したり，意欲的に意見を述べたりする生徒が多く見られたのだと感じた。

マイ授業プラン

時間・内容	活動	ABC	目標・反省
月 日	クロッキー		
	制作		
下書き①	理解	○	
	準備・片付け		
	まとめ		
月 日	クロッキー		
	制作		
下書き②	理解	○	
転写	準備・片付け		
	まとめ		
月 日	クロッキー		
	制作		
彫り①	理解	○	
	準備・片付け		
	まとめ		

STEP3
構図と表し方

○構図の工夫(風景の作り方の工夫)
同じ風景でも，壁と壁の間隔が違う，水平線の位置，実行きの取り方でも，表現は変化する。

図が構図に際してはなるべくこの順番になるのがよいですよ!

今後の課題は，ワークシートの更なる工夫と改善である。今回の自己評価と資料の一体型のワークシートは，全ての題材に必要なものではない。必要に応じて使用していきたい。題材によって自己評価の形式を変えることも必要だと考える。また，ワークシートの作成に時間がかかりすぎることも課題の一つだと感じた。今回使用したワークシートを作るのに資料集め等も含めて3週間近くを要してしまった。普段の授業で使用するのであれば，3学年分，各題材ごとに作り変えることを考えると，特に資料の内容を精査して作成すべきだろう。今後もより実用的に，より学習内容の理解が深まるようなワークシートの形式を研究していきたい。